

創立 1986 年

2021～2022年度クラブ目標

『新たな奉仕に踏み出そう
ロータリーの次の百年のために』

会長 鈴木 孝 幸
幹事 須藤 正 樹



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～22年度国際ロータリーテーマ

第1696回例会

令和4年1月20日(12:30～13:30)



○ソング

- 我等の生業

○スマイルBOX

- 鈴木孝幸会長（近藤有美様、卓話ありがとうございました。素晴らしいお話しで次の機会も楽しみにしております。沼田会員、ロータリー活動を楽しみましょう！）
- 須藤正樹幹事（近藤様卓話ありがとうございます。白河西ロータリーに待っています。）
- 金田昇会員（大寒です。健康に留意していきましょう。近藤様、卓話ありがとうございました。）
- 永野文雄会員（ゲストの近藤有美様、卓話ありがとうございます。「沼田重一」会員の入会おめでとうございます。）
- 石部辰雄会員（裁判所の立会があり、途中で退出すみません。）
- 佐藤清作会員（結婚記念日お祝ありがとうございました。）
- 富永章会員（先日の父の葬儀に際しては皆様には大変お世話になり、無事終えることができました。）
- 青木大会員（近藤様卓話ありがとうございました。）

私事ですが、先週スキーで右ふくらはぎの肉ばなれをしてしまいました。しかし村上会員の持っている治療器具のおかげで回復が3倍速くなり、来週には完治できそうです。ありがとうございました。）

- 齋藤孝弘会員（近藤様、卓話ありがとうございました。今度酒のみに行きましょう。）

▶第1696回例会出席状況 (R4年1月20日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	51名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	65名
Ⓒ ①の出席者数	29名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓔ ②の出席者数	11名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	40名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	63
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	63.4%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



鈴木孝幸会長

皆さん、こんにちは。今日もお忙し
い中、例会にお集まりいただきまして
大変ありがとうございます。まずは、
今日のお客様をご紹介します。本日、卓話をいただきます「株式会社フジ機工」の専務取締役の近藤有美さんでございます。近藤有美さんのお父様は現在、矢吹ロータリークラブの会長でございまして、お父さんによりますと娘は是非西ロータリークラブに入れてくれということを、先程ガバナー補佐のほうから伺いましたので、是非是非会員拡大に獲得したいなと思っております。石川格子会員は同じJCのメンバーということで、是非是非引っ張り込んでいただきたいなと思っておりますので、よろしく願います。それじゃ後で、卓話よろしく願いいたします。ありがとうございました。そして、今日は先日入会が決まりました新入会員の沼田さんが来ておりますので、沼田さん「高田産商株式会社」の社長さんでございまして、他団体、中小企業同友会でも活躍しておられる期待の大型新人ということで、今後ますます活躍していただくことを期待しております。よろしく願います。後ほど一言よろしく願いたいと思います。さて、いよいよというか、今朝の新聞で福島県は蔓延防止重点措置の早期適用ということで要請を出すということであります。昨日の県内の感染者数は87人。今日は105人でしたっけ。そんな形で感染が急速に拡大している状況であります。蔓延防止地区は今現在、県全体での適用はないと考えているようでありますので、今後の指定によっては我がクラブも対策を考えないといけないと考えています。皆さんもご存じの方も多いと思いますが、先日、中目さんから金田ガバナー補佐のほうに連絡がありまして、2530地区の危機管理委員会というのがあるんですけども、2月いっぱい地区行事では飲食を伴う会合は控えるようにという要請があったようであります。それにならってIMは4月9日に延期になりました。しかしながら、危機管理委員会では単会での会合は各クラブに判断を任せるとのことなので、来週の西クラブの新年会は白河地区に蔓延防止の網がかからない限り、通常通りの開催を現時点では考えております。ですが、2月10日の3クラブ合同新年会につきましては、3クラブが集まるという特別な事業ということから、白河クラブの近藤会長、そして南クラブの佐藤会長とも相談した上で中止と決定させていただきました。特に、来賓の西郷村長さんが2月27日に選挙が控えているというそういった状況を考慮しまして、残念ではありますが中止ということでご連絡します。3クラブ合同新年会の中止に伴って、我がクラブの例会のプログラムの変更につきましては、今月は職業奉仕月間

ということから、会員の職業にまつわる卓話をいただく
と中目プログラム委員長に相談いたしまして、今、鶴
丸親睦委員長に卓話を担当していただくというふうな形
で進んでおります。話はちょっとガラッと変わるんです
けれども、職業奉仕月間ということで建設業の私が最近気
になることを最後にちょっとお話ししたいと思います。私
は設計業務の中で建物の概算工事費というものを算出す
る機会が多いんですけども、その中で建設費の動向とい
うものを調べることで気づいたことがあります。それは
何かといいますと、この一年記録的に建設費が高騰して
いるということでもあります。この一年だけでなく2011年
から10年間で、木造住宅についてはなんと工事費が38
パーセントも上昇しています。実は、昨年1月から年末
の12月までの一年間だけで、実に20パーセントも建設費
が上昇しているんですね。木造住宅だけではなくRC鉄
筋コンクリートの住宅もその数字によると8パーセント
の上昇。鉄骨造の建築も13パーセントも上昇しているよ
うであります。その要因はいろいろありますけれども、コ
ロナ禍からの回復によって海外の建設需要が増加して全
体的に資材単価が上がったということもありますし、コ
ロナ禍によって逆に在宅の時間が長くなるということで、
住宅の需要が急増して木造住宅の金額が高騰したと。い
わゆるウッドショックと言われてるものですね。また、
鉄骨材については従来の生産方法だと二酸化炭素がかな
り出るということで、カーボンオフセットの観点で今、
鋼材の作り方を根本的に変えてるようであります。その
過渡期の中で鉄骨の供給が減って、やっぱり金額がかな
り上がっているということで。いずれにせよ、今の状況
で建築をするにはしっかりとコスト管理ができる業者選
定が大切だと思っています。我がクラブに所属します建
設業関係のメンバーの方々、沢山おります。皆さん、間
違いのない方々ばかりですから、是非会員の皆さんに建
築については相談されるといいかと思います。金額が高
い安いで万が一その業者さんとトラブルになったとして
も、我がクラブには弁護士の方宮本先生や水上先生もおり
ますので、そこら辺の処理も非常にスムーズにいくかと
思います。それでは、今日はこの辺で会長の時間を終わ
りたいと思います。本日は、よろしく願いいたします。

■幹事報告

須藤正樹幹事

- 公財) ロータリー米山記念奨学会 事務局長 柚木裕子：ハイライトよねやま262
- 県南分区ガバナー補佐 金田昇：IM開催についてのご報告
- ガバナー 志賀利彦、危機管理委員会委員長 石黒秀司：今後の地区行事開催について
- ガバナー 志賀利彦、青少年奉仕委員会委員長 大木和彦、RYLA委員会委員長 中目公英：第40回RYLA委員会オンライン開催に変更のお知らせ
- ガバナー事務所事務局：職業奉仕委員会セミナーにつ

いて（訂正）

○公共IT委員会委員長 相良元章：SNS勉強会中止のお知らせ

■新入会員挨拶

○沼田重一会員



すいません。マスクを取って話させていただきます。どんな顔かわからないだろうと思いますので。今、ご紹介ありました「高田産商株式会社」の代表しております沼田重一と申します。

私、出身は棚倉町でございます。ただ、商売の今の拠点は白河にほとんど置いておりますので、このクラブさんに位置的にもいいかなということで、ロータリーさんってどういう活動しているのか、私は存じ上げなかったんですね。ただ、うちの会社の会長が商売でも親しくさせていただいておりまして、先程お話あったとおり、手前どもでは建設資材を高騰の理由というか、高く売ってるわけではないんですが、そういう商売をしておりますが。また、工事のほうも請け負いながら元請けではございませんが、下請けとしてやらさせていただいています。ご存じあげてる方もいるんですが、まだまだ知らない方が多い中で、先程大型新人という体は多少大きいですけど心は小さいので、皆様のアドバイスをいただきながら何か皆さんのお役に立てるようこのロータリークラブで勉強していきたいと思うし、人脈も皆さんと親しくさせていただければありがたいなと思っておりますので。趣味も先程、会長から言えと言われたんですけど、だんだんもう既に61歳になっておりますので、スポーツは大好きなんですけど今ゴルフくらいしか手掛けておりません。是非、何かあったら誘っていただければありがたいと思います。今後共、ひとつよろしく願いします。

■委員会報告

○出席委員会

山田顕一郎委員長

皆さん、こんにちは。出席委員会でございます。今年度は、鈴木会長の強いご意向がありまして、上半期下半期の100パーセントの表彰もしようということで、カウントをさせていただいておりました。今から、上半期100パーセント出席の方のお名前を申し上げますので、出席していらっしゃる方は写真を撮りますので、前のほうまでよろしく願いします。阿部克弘会員、石部辰雄会員、運天会員、遠藤パスト会長、金田パスト会長、佐藤幸彦会員、鈴木会長、須藤幹事、鶴丸会員、中目パスト会長、永野パスト会長、成井パスト会長、藤田龍文会員、堀田会員、村上会員、山口パスト会長、渡部勝也会員、十文字会員、吉成会員の19名が上半期100パーセントでございます。ちなみに、今回の上半期100パーセントの方々には1,500円のクオカードをお配りさせていた

だいております。これは予算の関係上そういうことになっておりますが、また下半期も続けたいと思いますので、今後共よろしく願いいたします。



■本日のプログラム

職業奉仕委員会担当例会

○ゲスト卓話紹介

湊洋子会員



皆さん、こんにちは。今日、卓話をお願いしました近藤有美さんのご紹介をさせていただきます。「株式会社フジ機工」専務取締役。お父様は近藤均様、会社を女性として継承する期待のリーダーです。昨年は、白河青年会議所、成井匠理事長のもと、専務理事として活躍されました。日本青年会議所各会議にも参加され、全国でも頑張っております。また、昨年待望の男児にも恵まれ公私共々順風満帆とお聞きしています。会社概要その他のご活躍は、ご本人からお話いただけたらと思います。よろしく願いいたします。近藤均様は矢吹ロータリークラブの今年度の会長です。では、よろしくお願いします。

○株式会社フジ機工

専務取締役 近藤有美様



皆さん、こんにちは。わたくしは泉崎村で製造業をしております「株式会社フジ機工」専務取締役の近藤有美と申します。まずは、こんな私のような若輩者がこんなに沢山尊敬する先輩たちの前で話す機会を頂戴いただきましたことを、改めて心より御礼申し上げます。今までにないほど緊張しております。昨日もよく眠れませんでした。最初にお話させていただくんですけども、期待の星とか良いような紹介いただいたんですけども、今から話することはよくあるようなサクセスストーリーなんていうようなものも一つありませんし、どちらかというと私、物事を飾って話す人間でもないです。どちらかというと、挫折だったり失敗とかそういう話ばかりです。もしかしたら、すべてさらけ出して話過ぎてしまうかもしれないので、ちょっと今日、父に改めて事前にやってしまうかもしれないという謝罪してから今日この場にやって来まし

た。聞き苦しいところがあるかもしれませんが、精一杯お話をさせていただきたいと思います。本日は、この白河地域でこんな人間がいて、ちょっと今日のタイトルにあるとおり、「親泣かせ娘の後継者への道のり」ということで、後継者になるまでの道のりということでお話をさせていただいて、また父の築いてきた私の後継する「フジ機工」という会社についても少し知っていただければなと思います。どうぞよろしくお願いします。まず、「株式会社フジ機工」についてちょっと簡単にお話しさせていただきたいと思います。1988年9月に、父近藤均が中島村に設立しました会社です。今年で34年目の会社になっております。創業し始めは農機具をしまうような納屋の一角で、旋盤を一つ持って設計の仕事から始めたというような話を聞いております。現在は、泉崎村の中核工業団地の中に工場を移しております。事業所在地として会社全体図はこのような形となっております、機械加工の事業と板金加工事業、包装事業部の大きく3つの事業がありまして、全事業部合わせて約80名の従業員が現在活躍しております。各事業ごとの製品どういったものを行っているのかといいますと、医療関係、半導体、建設、自動車業界など、幅広い業界の機械加工、板金加工などを行う一方で、飲料向けのキャップシールの製造販売を行っています。会社の紹介については以上と簡単にお話をさせていただいたんですけど、ここから何故私が後継者になる選択をしたのかということで、幼少期からちょっと廻ってお話したいと思います。まず、私の簡単な紹介なんですけれども、中島村生まれ中島村育ちの32歳です。好きなものは、お酒と美味しいもので、今現在これだけの過去最強の体重になっております。大きくなりました。2018年に結婚しまして、夫がお婿さんとして入ってくれたんですね。なので、夫も近藤の名字を名乗ってくれまして、現在一緒に「フジ機工」に勤務しております。昨年7月に、男の子も出産しまして、家事、育児、仕事の日々を過ごしております。また、三姉妹の三女ということで、白河西ロータリークラブのメンバーであります石川格子さんと同じような境遇で、ばち娘で経営者という境遇でございます。幼少期の写真をちょっと出させていただきます。これは父をもし知っている方がいたら、わずかばかり毛がまだ少し残っているのと私です。私、三女なんですけれども。やっぱり、物心ついた時から私の家の目の前には工場があったんですね。なので、工場には機械加工やっておじちゃんとか、溶接バチバチやっておじちゃんとかが沢山いて、親達には絶対危ないから近寄っちゃいけないと言われていたんですけども、やっぱり何やっておるかすごく子供心に気になって、よく工場を覗きに行っておういった作業をしている方達の姿を見て、そして機械加工をやっていると切削水と言って、機会を切削するために使う油とかがあるんですけど、その独特な匂いが好きで。そして、溶接をしている時の鉄を溶接してる金属が溶接される香りが

私の幼少期の思い出で、今もやっぱりその匂い嗅ぐとちょっと落ち着きます。そんな小さい時は育ってきました。長女は看護師、次女は管理栄養士として関東で働いております。姉たちはそれぞれ手に職を付けるためにこつこつ努力をしてきてるタイプだったんですけども、私はというと小さい時から経営者を志しなんていうものではなくて、今写真にあげさせてもらった勉強はそれなりにやって、中学高校時代は運動部に所属して陸上ばかりやっていて、どちらかというと筋肉バカでした。陸上を引退するとあまり多くは言えないんですけども、私の頑張ってきた情熱、陸上から今度は遊びに転換してしまいました。そこで少々はしゃぎすぎてしまっていて、間違いなく兄弟の中で一番母を泣かせて、父からは愛の鉄拳を一番くらってきたのは私なのかなと思っております。そして、これ衝撃写真かもしれないんですけども、その頃、愛の鉄拳を一番貰ってきた時期の私の様子です。親の言うことが鬱陶しくて、早く家を出て働きたいと思っていたのですが、母こんな娘で泣きますよね。泣きながら専門でも短大でもいいから卒業しなさいと言ってもらえまして、小さい時に興味のあった海外の文化、言語を学ぶために栃木の短期大学の英米語学科に入学させていただきました。在学中にも、ポートランド大学のほうに短期留学をさせていただき、何とか先生、周りのお蔭で卒業することができました。在学中も専攻した英語を使う企業を特に何の仕事をやりたいと特になくて、なんとなく就職活動をしていました。特に先生のアドバイスもちゃんと聞かずに謎の自信があったんですね。なんですけれども、二次三次、そこまでは何とか面接進むんですけど、でもやっぱりさすがに面接でこんな頭で行ってないです。ちゃんとした様子で行ったんですけども、やっぱり不合格というようなそれが続きまして不採用でした。そこでちょっと挫折を味わいました。就職活動失敗しました。リーマンショックというところもあったんですね、ちょうど時期が。そこで厳しい現実突き当たることができました。そこでその私の状態を見かねた父から今受けてる会社が受からないんだったら、この会社に行ってお前根性叩き直してこいと言われてまして、父の会社で取引している愛知県の工作機械メーカーの社会人として、この会社で心を磨くために工作機械メーカーの「ヤマザキマザック」という会社に入社することとなりました。そこでちゃらんぽらなんだ私に待ち構えていたのは、名だたる優秀な大学、大学院で素晴らしい論文を書いて卒業してきた同期との地獄の研修の日々でした。まず、同じ日本人なのに話していることが全く理解ができなくて、謎の数式をぶつぶつ唱えて図面を見ながらフレミング、立体的に図面を見るためにこういうふうによりながらぶつぶつ何か唱えているんですね。私、それを見た瞬間に、私なんという所に来てしまったんだろう、今まで出会ったことのない方達とうまくやっていけるのかなとすごく感じたんですけども、

じゃこれも挑戦だと思いいこの環境に適応していくために何とかそんな今まで出会ったことのない同期達と打ち解けまして、呪文のような専門用語だったり、様々な課題を助けてもらいながら何とか研修を終えることができました。正式に部署に配属となりまして、これから多くの方と出会いまして、熱心にできの悪い私に指導して下さったおかげで、何とか母も安心するくらい少しは社会人らしくなることができました。素晴らしいご縁をいただいたおかげで、愛知で出会った方達は今も仲良くさせて頂いております。そして、ここで福島に戻るきっかけというところなんです。一番の理由は、母が過去に事例のない難病に罹ってしまったんですね。自己免疫疾患という病気で。2008年12月に他界した事をきっかけとなりました。姉は二人共自分のなりたかった職業になって、自分の住みたい街に住んで関東で働いていたので、彼女たちは帰ってこないだろう。私は正直言うと、別にこの仕事をやりたくて今の仕事をやってるわけではない。ただ、同僚の人達はすごく良い人たちだし、仕事はすごく楽しいし、学びも沢山あるし。やっぱり、いろいろ考えました。ただ、父が母のために通院をして、その時は福島医大のほうに中島村からよく通っていたんですけれども、通院をして仕事をして地域活動もして。それで、母が亡くなり葬儀が終わってぼつり疲れ切った父の様子をその背中を見た時に、これは父がこのお家で1人であることはちょっとやっぱり支えていかなきゃいけないのになって思いました。それを見てすぐ決断して、母が亡くなったのが12月末なので、もう1月にお世話になった会社で退職届を出させていただきまして、3月で退社して4月から「フジ機工」に入社することを決めました。荒れに荒れていた私だったんですけれども、父のお蔭でこうやって入社させてもらった会社で人間も磨き、社会人としての基本的な知識を学ばせてもらって、少しはまともな社会人になって父に微力ながら親孝行したいなという気持ちが少し芽生えてきたんですね。亡くなった母には沢山泣かせてしまったんですけれども、心配をかけてきたので社会人になってやっとようやく母に親孝行できるかもしれないとそういう気持ちになってきた矢先に母が病気で亡くなってしまったので、私お母さんに何にも親孝行してないんです。その母への代わりというまでは言いませんけど、それで父を支えられたらという気持ちで決断しました。そして、「フジ機工」に入社することとなりました。入社した私は、まず現場を知ることとでキャップシールの製造部門のほうである包装事業部に配属されました。そこで営業として現場実習、全国各地のお客様へ足を運び、現場では社長の娘ということは全く関係ありません。バチバチに現場の人達に怒られてしっかり教えてもらって、もちろん客先のお客様も娘だからと関係ないです。関係なく一営業マンとして接してもらってました。もちろん、悔しい思いもしましたが、もともと私は体育会系の気質なので、もう何くそやって

やるという気持ちでとにかく業務をこなしていきました。クレームがあれば、一人で朝3時に起きてお客様の工場に始業時間前に行って、一日中立ちっぱなしでまるまる一日中検品作業を行ったり、お客様の急な納期の対応するために、現場に頑張って物を作ってもらって、それを私が運送便が間に合わないの自分で自力で車で運んでくんです。朝早くまた出てとか、最悪出来たものを持ってそのまま夜現地に走ったりということで、山梨、静岡、新潟、あとは空港にまで運んだりとかいうのもありました。一日の走行距離が、700キロから下手すると1000キロ近く走ることもありました。客先で叱られて、それは自分のミスがうまく対応できなかった、そういう悔しさのあまり、車の中でよく号泣しながら帰ってきたことともありました。そんな時も、父からは失敗がないことはもちろん一番いいんだと、ただ落ち込んでも場合じゃないぞお前と。失敗があった時こそ、誠心誠意を持って問題に取り組んで改善した時、ちゃんと腹を割って話ができるような信頼関係をお客様と持つことができるからやってみろというふうに言われたんですね。そのとおり私も実行してみました。それがやっぱりそのとおりだったんですね。例え、クレームがあったとしても何度も何度もお客様のほうへ足を運んで、精一杯誠意を持って改善に努めお客様に向き合っていけば、以前よりもお客様とより良い関係を築くことができるということを学んでいきました。それが今日の「フジ機工」であり、お客様との信頼関係が蓄積されているのかなとすごく感じました。そして、入社してからやはり親子なので経営に対して何か気になるところは言いたくなるんです。なんですけれども、言いたくなるんです。で、やっぱり言います。娘だから容赦なく言うんですけれども、すごく喧嘩になります。ただ、私は話をする上でこれだけは一つ決めてることがあって、父に対して尊敬の気持ちを持って意見してます。やっぱり、その父に対してこうやって会社を作り上げてくれたということに対しての敬意を持たないと、やっぱりうまく親子関係であり、役員同士でありということどううまくいかないのかなと思い、それはちょっと心がけさせていただいてます。もちろん、その話は家には持ち込むことはないですし、会社であった話は終わりというふうにしていました。そんなこんなで年月重ねまして、2019年の11月に専務取締役という役になりました。続いて、会社外の活動についてなんですけれども、2017年から白河青年会議所にて活動させていただいております。きっかけは、尊敬する「東陽電気工事」の石川格子先輩のご紹介でお声掛けさせていただいたことがきっかけとなりました。私はコンプレックスの塊でできないことが沢山ありすぎる。全く優秀じゃないです。なので、経営者を志す人間として足りないものばかりなので、この青年会議所に入れば何か自分ができてないことを少しでも埋められることができるのではないのかなと思ひまして自己成長のために、そして私が幼い時

から父はロータリークラブに入りまして、この町で会社をやらせてもらっているんだから、少しでも町に恩返しなきゃ駄目なんだという話は私は小さい時から聞かされてたんですね。なので、その話も聞いていたので私もこの町に戻ってきて父の会社にこうやって勤めて、やっぱり小さい時からお世話になって育ててもらった町に恩返しができたらなと思い、そういった気持ちでも活動しております。去年は、尊敬する偉大な先輩たちがやってこられた専務理事という大変な役職を成井理事長から任命いただきまして、そこでやりますと決心をしたんですけども、しかしながらタイミングが良いのか悪いのか、ちょっとその時に妊娠が発覚してしまったんですね。7月が出産予定だったんですけども、6月まで何とか活動させていただいて、11月には活動に復帰させていただきました。やっぱり、この重みのある役職を受けさせてもらって、途中で投げ出したくなかったんですね。途中、産休で休ませてもらったんですけども、やはりこの重要な役職を何とか最後までやらせていただくために、昨年度理事長だった成井匠さんをはじめまして他の多くのメンバーだったり、家族の支え、そして先輩方の暖かいお言葉をいただきまして、何とか一年務めることができました。これからもそんな支えてくださった方達へ恩返しのためにも、何か私の環境の中で変化があったとしても、地域活動だったり自己成長を止めることなく続けていきたいなと思っております。続きまして、これからの「フジ機工」の取り組みということでちょっとお話させていただきたいと思います。コロナ前までは航空機関係の継続的な仕事の確保を目標に投資や受注活動を行ってきたんですけども、このコロナが発生してから航空機関係の仕事が激減して、現在はゼロとなってしまいました。そして、今いろいろと問題になっている福島原発の廃炉のお仕事に参入させていただくことになりまして、会社の強みを生かして福島県に、そして町に少しでも貢献できたらなと思い取り組んでいきたいと思っております。また、未来の創造業を支えるかもしれない学生さんたちに、ものづくりに対して興味を持ってもらえるように、学校、団体へのPRも当社として力を入れていきたいと考えております。最後にまとめになるんですけども、特に職業の目標がなく夢もなく好きなことをさせてもらって、三姉妹でどうしようもなかった私だったんですけども親から大事に育ててもらって、そして今までありがたいことに素晴らしい方達と出会いを重ねていきまして、多くの方に私という人格を作っていただいたのかと思っております。家業を継ぐ上で、きっかけとなったのは母の死なんですけれども私の人生の分岐点となりまして、自分のことしか考えられなかった人間が父のことや周りの方、そして地域の事を考えるようになることができました。私も去年、一児の母となりまして自分が親の立場となりました。私が両親や出会った人にそうしてもらったように、子を信じ家族のため地域のため会社の仲間のた

めに、母ちゃん頑張っていきたいと思っております。そして、こんな若輩者ではありますがここにいる諸先輩方、また引き続きご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。本日は、いろいろと衝撃写真だったりしたんですけども、また引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

～ 質疑応答 ～

○堀田一彦会員

大変興味深いお話、ありがとうございました。白河青年会議所って、来月2月に清原和博氏を迎える講演会があるって小耳に挟んだんですが、その内容だったり協賛の仕方なんかを伺えると。

○近藤有美様

先輩、ありがとうございます。チャンスをいただきまして。2月19日に、「清原和博氏特別講演会『復活！！その先へ…』inしらかわ」が令和4年2月19日土曜日に開催されます。13時30分開演で15時30分閉場となっております。受付は12時30分からの開始となっております。場所は、白河文化会館「コミネス」大ホールにて行われます。定員がなんと大ホールで行うので700名となっております。入場は無料となっております。今年の企画室長である上田雄介企画室長は、こちらのほうを去年から練りに練って作られた事業となっております。もし、今回の事業にかなり青年会議所としても力を入れておりますので、是非とも皆さん協賛のほうをお願いしたいので、後程文書のほうをお送りさせていただくことは可能でしょうか。是非ともこの事業の成功のためにも皆様の協賛が必要となりますので、どうぞご協力お願いいたします。

○鈴木孝幸会長

近藤有美さん、本当に素晴らしい半生というか卓話をいただきまして、どうもありがとうございました。まだまだ、沢山ネタを持っていると思います。そのネタを次の機会、次の機会、入会という会員としての卓話をもう一度聞きたいと本当に思った次第でございます。本当に大変今日はどうもありがとうございました。

